

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

<自分大好き 仲間大好き 心かがやく上菅田笹の丘小学校>  
 ○楽しく学び、のびのびと表現しよう。(知)  
 ○みんなも自分も大切にし、社会に貢献しよう。(徳)  
 ○元気な心と健康な体を作ろう。(体)  
 ○学区の特色を知り、地域の方々と共に活動しよう。(公)  
 ○すてきな日本を学び、世界で活躍できる人になろう。(開)

教育課程全体で  
育成を目指す資質・能力

<問題発見・解決能力>  
 <自分づくりに関する力>

具体化した資質・能力

問題を発見する力 解決手段を定める能力  
 他者を理解する態度・自己を理解する姿勢 自己肯定感

中期取組目標

○子ども一人ひとりの思いを大切にしながら、自ら学ぶ学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進していきます。  
 ・1年目は、様々な解決方法から自分で解決方法を選択し、自分の考えを表現できるようにします。  
 ・2年目は、お互いに考えを伝え合って、解決方法を自分で見つけていくようにします。  
 ・3年目は、自分で課題を見つけ、その解決を図るための学習計画を自分で立てて学習を進めていくようにします。  
 ○地域での「人とのつながり」を意識し、豊かな経験を通して、地域の方々と共に活動する心を育てます。  
 ・3年間を通して、子どものまへの思いを深め、学校や社会に主体的に参画できるようにします。  
 ○日々の観察とデータを活用しながら子どもの状況や変容を把握し、学びの充実や安全・安心な学校生活を図り、一人ひとりの自己肯定感を高めていきます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①課題設定を工夫し、主体的な問題発見・解決の学びを進める。②ICTを効果的に活用し、児童が自分の考えをより豊かに表現し、友達と共有・比較しながら学びを深められる授業づくりを進める。③学年ごとに研究テーマを定めて研究に取り組む。色々なクラスの授業が見に行けるように、ウェルカムウィークを設ける。
担当	研究部・情報部

学力向上に関わる本校の状況

令和7年度 横浜市学習状況調査から  
 【学習意欲】  
 ・英語に関する学習意欲が高い児童が多い。授業での子どもの様子を見ていると、興味をもって取り組み、進んで英語を使おうと表現しようとする姿が見られる。  
 ・「総合的な学習の時間」「生活」では本校の特色でもある食育や、学年に応じた総合的な学習が、子どもたちの意欲につながっている。その一方で、社会科の学習の、「調べた事実をもとに考え、問題を解決しようとしていますか。」の設問に対しては「している」と答えた児童の割合が横浜市の平均よりも低い結果となった。前述の学力調査での結果にもあるように、知識を経験と結び付けたり、つなげていけたりするような学習展開を模索する必要がある。  
 【学習について】  
 ・国語では「情報活用」が、算数では「目的に応じてデータを集め、分けることを分析する」問題の正答率が低くなっている。どちらも「文章をしっかり読む。言葉の意味をとらえる」「情報を整理し、事象と事象を結びつける」ことが大切になってくる。日々の学習の中で、一つひとつの課題を丁寧に取り組み、子どもたちが「わかった！」と達成感や成就感をもつことができるような、授業改善の必要がある。また、タブレット端末での学習(ロイノートでの学習)を取り入れながら、全ての子どもが主体的に学習に取り組むことができる学習を行う。  
 ・社会や理科では、グラフや表、資料を読み取る設問の回答率が高い。地図帳や、資料、実験結果などをじっくり見て、考察する力を高めることができるように指導を行う。

今年度の目標

①課題設定を工夫し、主体的な問題発見・解決の学びを進める。  
 ②ICTを効果的に活用し、児童が自分の考えをより豊かに表現し、友達と共有・比較しながら学びを深められる授業づくりを進める。  
 ③学年ごとに研究テーマを定めて研究に取り組む。色々なクラスの授業が見に行けるように、ウェルカムウィークを設ける。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	○学習のねらいを明確にもち、意図的にGIGA端末を利用する機会を設ける。児童が学習を選んだり進めたりできるようにGIGA端末や生成AIを児童が必要に応じて選べるように、効果的な活用方法を探索していく。 ○児童・教職員がクラウド上の教材などを適切に利用できるように、適切な管理・保管を続ける。 ○問題解決力を育てる学習 ・導入の際、日常の中から課題を見付けることで意図的に問題解決に取り組めるようにする。 ・多くの子どもが実感をもった理解ができるように、体験的な活動を取り入れる。 ・板書や掲示物、写真や動画など、視覚的な支援を行う。 ○基礎的な学力の定着 ・高学年での学力差解消や、基礎学力を高めるために、少人数学習や、習熟度別学習を取り入れた指導を行いたい。 ○家庭との連携 ・家庭学習の習慣を定着のために、懇談会や学校便り等で保護者に家庭学習について情報発信を行う。
下半期	○重点研究を中心とした学習の進め方 子どもたち一人ひとりが達成感をもつことができるような学習を展開する。また、学習システムを大切にするために、教職員が自分の学年・他学年の学習を見合う事を意識し、意見交換をしながら学習を進めることができるようにする。 ○自分の思いや考えを友達と伝え合い、協働的に解決していく学習 友達と伝え合うためにも、自分の考えとの共通点や差異点を見付けながら話を聞くとともに、自分の思いや考えをわかりやすい言葉で伝える場を意図的に設定する。小グループでの活動を積み重ね、協働的に問題を解決するプロセスが理解できるようにする。また、協働的に解決するよさや楽しさが実感できるように、互いのよさを認め合う場の設定する。 ○SNS等の適切な使い方やトラブルの未然防止など、情報モラルを年間通じて教科に関わらず指導する。 ○自己調整学習や学びを選択する学習 学習したことをもとに自分たちで次の課題を見出し、学びをつなげていけるように、教科等のつながりを意識した学習を展開する。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①「だれもが」「安心して」「豊かに」学校生活を送ることができるように、多様な他者とのかかわる場を意図的に設定し、他者を尊重する態度を育むことができるようにする。②自分のよさを見つかけたり、友達のよさを伝えたりする活動を年間を通じて継続的に設定する。自己肯定感を高めていくことで、自分も他者も大切にできる子を育む。③教職員向士の児童理解を密に行い、教職員や子どもの人権意識を磨いていく。多様な機関、地域・保護者と連携し、いじめの未然防止に努める。
担当	指導部 道徳部

豊かな心に関わる本校の状況

○大規模校ならではの学校生活を通して、自己や他者、互いを認め合いながら、友達や教員と豊かな日々を送れるようになってきている。  
 ○ペア学年や同じ学年の友達と一緒に過ごし、協力して活動することを通して、関係を深めてきている。  
 ○学習などの様々な場面で、自分の思いや考えを伝える姿が見られるようになってきた。

●個としては、心の弱さが見られ、相手の言動により気持ちが沈む子どもがいる。  
 ●自分の考えや意思をもって積極的に学習などに取り組める子どもが少ない。  
 ●自己の思いを表現することに苦手意識があり、コミュニケーション能力を育成する必要がある。  
 ●道徳的価値を知ってはいるが、実践できない面も見られる。

☆表現の仕方が適切でなかったり、語彙が不足していたりする様子が見られる。そのため、自分の気持ちを思うように伝えることができなかったり、他者の思いを受け入れることに難しさがあったりして、児童間のトラブルにつながってしまう実態が見られる。

今年度の目標

①多様な他者とのかかわる場を通して、他者を尊重する態度を育む。②自分や友達のよさに気付き、認め合うことで、自己肯定感を高めて自己も他者も大切にできる子を育てる。③児童への理解を深め、教職員や子どもの人権意識を高め、いじめの未然防止に努める。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	・いじめを許容しない学校を目指し、人権教育全体計画をもとに道徳の学習や人権週間の取り組みなどを通して、人権への意識を向上させる。 ・年間を通して意図的・計画的に他学年との交流機会を設け、自己肯定感を高めていく。特にペア学年の交流を活用し、高学年が低学年をサポートする経験を積み重ねられる場を設定する。 ・自分のよさに気づき、自分を大切にすることを育てながら、他者(友達)のよさを認め、他者を大切にしていける好循環な成長へとつなげていく。 ・登下校等で日頃から関わりのある地域の方々や、授業や行事での様々な人との関わり合いを通して、地域とのつながりの大切さに気づき、地域に奉仕する心を育んでいく。また、積極的に地域行事への参加と活動を促していく。 ・いじめの早期発見・早期対応するために、学校生活アンケートを実施する。 ・情報モラル教室等を通して、人権に配慮する気持ちとスキルを高める。 ・教職員の人権意識向上に向けた児童理解研修を行う。また、配慮を必要とする児童の増加、ニーズの多様化に対応できる職員研修を充実させる。
下半期	・いじめを許容しない学校を目指し、人権教育全体計画をもとに道徳の学習や人権週間の取り組みなどを通して、人権への意識を向上させる。 ・年間を通して意図的・計画的に他学年との交流機会を設け、自己肯定感を高めていく。特にペア学年の交流を活用し、高学年が低学年をサポートする経験を積み重ねられる場を設定する。 ・自分のよさに気づき、自分を大切にすることを育てながら、他者(友達)のよさも認め、他者を大切にしていける好循環な成長へとつなげていく。 ・地域の一人としての自覚と地域に奉仕する心を育み、積極的に地域行事への参加と活動を促していく。新校舎での学校生活が2年目を迎え、今後より地域との連携が図れる活動を検討・計画していく。 ・いじめの早期発見・早期対応するために、学校生活アンケートを実施する。 ・教職員の人権意識向上 児童理解研修を行う。また、配慮を必要とする児童の増加、ニーズの多様化に対応できる職員研修を充実させる。 ・人権週間では、各学年での障害者理解、高齢者理解学習や、近隣の特別支援学校の児童との交流を計画的に実施することで、人権に対する理解を深める。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育 食育	①各家庭と協力して基本的な生活習慣の定着「早寝早起き朝ごはん」を目指し、遅刻する子どもたちを減らしていく。横浜St☆dy Naviで、自分で健康観察ができるようにする。②子どもたちの思いを大切にしながら、体育委員会が中心となって、長縄・短縄大会を行う。③教科等や月1回の食育の日の学習を通して食に関する知識を習得し、自らの食生活の課題を考え実践することができるようにする。
担当	体育部 食育部

健やかな体に関わる本校の状況

①昨年度は睡眠も朝食の喫食率も、昨年度市の平均と同等であったが、今年度はほとんどの学年の数値が上回っている。食育の日に新たに朝食のテーマを取り入れたことも一因と考える。ただ、変わらず睡眠時間の乱れと朝食の欠食が比例しており、生活習慣に課題がある。家庭と連携した生活習慣の改善が必要だと考えられる。  
 【R7】朝食を毎日食べている児童の割合: 84.7%(2年)、79.2%(3年)、85.7%(4年)、87.8%(5年)、84.5%(6年)、2.3年生において低く、特に旧3年は約9%も低い。

②「体力が向上して、クラスの仲を深めたい」という子どもたちの思いのもと、長縄大会を計画・実施した。各クラス目標を立て、積極的に取り組むことができていた。

③学校評価アンケートで「食育で学習したことを生かして給食を食べたり運動に進んで取り組んだりしましたか」という問いに、児童は89→93%に上昇した。毎月継続している月1回の食育の日や教科等での指導の効果でさらに関心が寄せられた。

今年度の目標

・健康になるためにどのような生活をすればいいのか知り、「早寝・早起き・朝ごはん」をはじめとするよりよい健康習慣を身に付けられるようにする。  
 ・授業や休み時間、行事を通して楽しく運動を行い、体力を向上させる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	○学校保健委員会を通して、各クラスで健康になるために1年間のめあてと具体的な取組を決める。 ○教科等の学習と関連して、毎月の食育の日で、バランスイナカードを活用し、食育について学ぶ。 ○月に1回食育だよりを発行したり、試食会を活用して、家庭にも「早寝・早起き・朝ごはん」を意識してもらおう。 ○体育読本、体育科指導の解説等を活用して、子どもたちが「わかる」「楽しい」授業を実現していくことで、運動の楽しさや喜びにふれ、課題を解決する力を高めていく。 ○年度ごとにカリキュラムや特別教室割当を改善し、体育館や校庭の場の使い方を工夫し、運動量・学習量を十分に確保し、授業を展開できるようにする。 ○特別活動(2)において健康についての課題を取り上げ、自分なりの目標を決め、それに対しての具体的な取組を行っていく。
下半期	○学校保健委員会を通して、各クラスで健康になるために1年間のめあてと具体的な取組を振り返り、学校医などの専門的視点を加えて、よりよい健康習慣を身に付ける。 ○総合的な学習の時間等で、地域での「人とのつながり」を意識し、豊かな経験を通して、地域の方々と共に活動する心を育てる。また、校内環境を活用したり、地域の農家の方との連携を図ったりして、食物を育て、食べることを通じて自他の生命と向き合えるようにしていく。 ○教科等の学習と関連して、毎月の食育の日で、バランスイナカードの活用をし、食育について学ぶ。 ○月に1回食育だよりを発行し、家庭にも「早寝・早起き・朝ごはん」を意識してもらおう。 ○校内ネットワークを利用した学習資料の共有化や、必要に応じた研修の実施を通して、指導力を高める。 ○体育委員会と連携をして、校庭や体育館でたくさん遊びながら体力を向上させるような企画を考える。その際は、体力目標を立てて、クラスや学年で実践する。長縄 鬼ごっこ等